

業界の

声



● 山梨県事務機文具商協同組合

専務理事 中川良一氏

業界の景況は？

景気はあまり良くないです。文具の景気というものは、産業の発展と密接に関わっています。産業が元気になるなければ、企業は経費縮小を検討します。その中で、筆記用具、机等の文具製品の使用サイクルは非常に長くなり、当業界へ影響が出てくるのです。今は産業の発展を望んでいます。

また、業界内の動きとしては、文具の販売品が中国等の海外製から日本製へシフトしてきている、ということ です。以前、海外製は安く人気を集めていました。しかし、実際使ってみると使いづらく、また壊れやすいものの中にもありました。そんな中、日本の文具メーカーは性能をアップし、また新製品の発売サイクルを早め、海外製にはまねできない製品を作りました。こうした流れが、この現象を生み出したものと考えられます。

文具とは、『気持ち』を左右します。使いやすい文具は脳をリラックスさせ、気持ちを落ち着かせますが、使いづらい文具は、気持ちをイライラさせ、精神を不安定にさせることもあります。これらの理由も、この現象の原因の一つかもしれません。

今後の展開は？

今後は、若い方々（後継者等）の育成を行っていき、その方々が文具業界を飛躍させてくれることを望んでいます。これまでは、私たちが他団体等との折衝等を行ってきました。しかし、私たちも永遠には業界を支えていくことはできません。これからは若い方々に未来を託し、私たちはフォロワー等をしながら見守っていくことが大事ではないでしょうか。若い方々には何事にもチャレンジして頂き、大いに失敗し、そこから何かを掴んでいって欲しいです。



万年筆を修理する中川氏